

第5回富良野市総合戦略有識者会議 議事録

■開催日時 平成28年2月23日（火） 午後2時00分～午後4時05分

■開催場所 富良野市役所 大会議室

■出席者 <委員> 能登会長、荒木委員、清水目委員、松村委員、田村委員
三瀬委員、千谷委員、南條委員、原田委員、小川委員
飯沼委員、藤田委員

(計12名)

※欠席 松井委員、菊地委員、鎌田委員、太田委員、西本委員

(計5名)

<事務局> 若杉総務部長、鎌田保健福祉部長、原経済部長
山内商工観光室長、外崎建設水道部長、遠藤教育部長
西野企画振興課長、入交企画振興係長

1. 開会（午後2時00分）

2. 市長あいさつ

- ・総合戦略策定に向けて、これまで委員の皆様から意見等を拝聴し、行政で対応できるのか、戦略に掲載すべき内容かなどを整理してきた。
- ・本日の有識者会議において、策定に向けた最終の確認、まとめを行いたい。

※以降は、設置条例第5条に基づき、能登会長が進行。

3. 議題

(1) 前回有識者会議において各委員から出された意見について

事務局より資料1に基づき説明。

(2) 金融機関からの情報提供について

各金融機関（北海道銀行、北洋銀行、旭川信用金庫）より資料2に基づき説明。

(3) 富良野市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略（案）について

事務局より資料3に基づき説明。

【委員】

- ・空家対策と移住対策を色々な発想の中で取り組んでいかななくてはならない。
- ・事実かどうかわからないが、富良野市は幼稚園の親の負担が高いと聞いたので、調べる必要があるのではないか。
- ・人手不足が顕著であり、富良野市にもっと人が集まるようにするために、地元の企業が早く求人情報を出す必要があり、そして、その情報を広く市民などに周知し、人を呼び込む取り組みが重要である。

【委員】

- ・地域経済として人口が減ることは危惧するところであり、消費者がいなければ経済が成り立たないし、従業員が集まらなければ企業は倒産する。
- ・企業誘致に取り組んでも、人が集まらなければ意味が無くなってしまう。

- ・企業も行政と一緒にあって人を増やすことに取り組んでいかななくてはならない。

【委員】

- ・ビジョンが見える戦略である。
- ・作りっぱなしの戦略ではないので、効果を検証する中で、事業の見直しなどを行ない、時代に即したものになっていかななくてはいけない。
- ・住民一人ひとりが持っているパワーを、まちづくりに発揮でき、希望が持てる戦略ではないか。

【委員】

- ・人口減少問題を考えたとき、メインとなるのは女性である。
- ・女性が、富良野に住んで良かったと思える町でなければならない。

【委員】

- ・地域の中で、住んでいる人と若い市職員の接点がない。
- ・暮らしの中で、住んでいる人と若い市職員が接点を持つことにより、交流が生まれ、コミュニティの活性化につながるのではないか。

【委員】

- ・金融機関として、期待されていること何か、できることは何かを考え、支援していきたい。

【委員】

- ・今後は、PDCAを機能させること大事である。
- ・市民一人ひとりが、施策を認識し、生活をしていくことが必要であり、そのための啓蒙活動も重要である。

【委員】

- ・他市町村の戦略は見ていないが、富良野市として個性的な戦略が策定できたのか。
- ・検証に際しては、事業のスクラップ&ビルドが必要であり、他地域と同じような事業を行うのであれば、単にパイの奪い合いになるだけである。
- ・外部から人を呼び込むことも必要であるが、富良野で生まれた人が地元に残るため、戻って来られるための支援を講じる予算も必要ではないか。

【委員】

- ・5年後の富良野市のめざす姿が分かりやすく、明確に示されている戦略である。
- ・特に学校の果たす役割は重要と考えている。
- ・キャリア教育においても、現在の北海道の研究指定校だけの取組ではなく、市内の他校にも広げていき、富良野を愛せる子どもたちを育成していきたい。
- ・東大演習林の活用の際しても、子どもたちの郷土愛につながるような取り組みにしていきたい。

【委員】

- ・効果の検証に際して、モニタリングを積極的に行う必要である。住民票窓口での簡単なアンケートによる人口移動の実態把握であったり、空家の実態把握においても、建築サイドだけでなく税務や水道などの部局が連携し、調査する必要がある。

- KPIによる数字の評価だけでなく、数字で評価できない部分で関係者による建設的な評価も重要である。また、市役所は良いことをやって当たり前、失敗するとたかれる構造があるが、市民が市役所に対して褒めることで一体感も持って施策を推進できるのではないか。
- 空家バンクは市役所で担う限界があり、専門的な見地から対応できる半公的な体制が必要ではないか。
- 結婚相談窓口は、市役所の中ではなく、アウトソーシングを考えてはどうか。

【委員】

- 戦略策定において、富良野市は他自治体と比較すると、多くの議論がなされ、データ分析を行ない、課題を明確にした取り組みとなっている。また、具体的な事業も明記されており、わかりやすく整理されている。
- 戦略は行政だけでなく、民間や住民など市全体での取り組みが必要であり、PDCAによる検証で見直しを行っていくことが大事である。
- 戦略に関して雇用の視点で入る自治体が多いが、富良野市は人口の自然増減と社会増減を比較分析する中で、自然増減に対する戦略を最初に持ってきたのは他自治体にはない特徴的な取り組みといえるのではないか。

【委員】

- この戦略を市民に理解してもらうためにも、広報での周知や市民に対する説明の場を設けるなどの取り組みが必要である。特に子育てに関する施策は、女性にどれだけインフォメーションするかであり、女性の持つネットワークでどれだけ取り組みを広められるかである。
- PDCAでの数値目標の検証だけでなく、市民がどう思っているかという感性としての評価も必要である。
- 今後のモニタリングとして、30代女性が旭川へ転出している理由、結婚したときの理由を調査してはどうか。

【会長】

- 官民協働のまちづくりを進める中で、いかに情報を活用し、課題に取り組んでいくかである。
- 本市の取り組みとして企業誘致を本格的に実施したい。若い人が働ける場の確保を念頭に、結婚から出産へとつなげ、社会増及び自然増の状況づくりを図っていきたい。
- 市の機構改革として、出会い総合サポート室を設ける。結婚の相談窓口として行政が中心となり関係団体などを束ねる役割を担い、人口増や出生数増につなげていきたい。
- 富良野の恵まれた自然景観は外にはない財産であり、その活用によって、定住人口や交流人口の増加につなげていきたい。
- 市の子育て施策は他自治体と比較して見劣りするものではない。将来展望を考えたときに、市民の協力のもと長続きする施策を実施していかなければならない。
- 今後、人づくりをより一層進め、住民と行政によるコミュニティの活性化を図り、交流を深められる状況づくりが必要と感じている。
- 本日の有識者会議において、総合戦略のご賛同を得ましたので、今後、効果の検証を行う中で、事業や予算の見直しを行い、更に住民周知を図りながら、戦略を推進していきたい。

4. その他
なし

5. 閉会（午後4時05分）